

が瞻星臺でありました。高さ七尺餘りの五本の石の角柱の上に平らな石が六枚しきつてあります。何か上面に變つたものがある様に考へられましたので上つて見ますと圖の様に四隅に直径は、13 廻深さ 9 廻の穴があるのに目がとまりました。これは多分昔時この穴に柱をたて、あつたかと思はれます。この他に西方の端に二箇の (A, B) 小さな穴がありますが何のために作られたのか想像が付きません。も一つ南北の端に (C, D) 長方形のくぼみがあるのに興味をひきましたがこれが何であるか、又何のために作られたのか想像に苦しみます。とにかく瞻星臺は私にとつては思ひもよらぬ見つけものでした。書物に依て調べて見ますと高麗朝初期に作られたもの、様に思はれますが如何でせうか。今は概略のお知らせをさせて頂くとぐめます。

朝鮮開城元町

宮 澤 堂

新たに定められた星座の境界圖の一部

